

分類	意見
1 子どもの権利に関する周知・啓発について	権利侵害があった場合、子どもがどのようにアクションを起こせるか、窓口や具体的な動きもリーフレットに掲載されるとよい。 子ども向けの子どもの権利の周知啓発について、当事者である子どもの意見を聴くべきである。 子どもが関心のある身近なテーマで子どもの権利について考えるのはどうか。Ex. スポーツと子どもの権利 子ども自身のエンパワメントについて、区内施設と連携して考えていくとよいと思う。 リーフレットを配るだけでなく活用の仕方も含めて伝えるとよい。 子どもの権利について学ぶことを学校のカリキュラムに組み込むことについて考えていけるとよい。 学習用動画が具体的に生徒たちに届くところまで設計してほしい。 子どもの権利条例学習用動画をもっと活用できる方法を検討してほしい。
2 子どもからの相談・意見表明に対する支援について	子どもたちから意見を聴いて、どのように反映できるかということを検討した上で、子どもたちに、検討の経過や結果をフィードバックすることが重要である。子どもたちに配っているタブレットに、区としてどのように検討したかということが提示できるとよい。 フィードバックでは何が反映されたかだけでなく、反映されなかった理由なども記載しているという特徴がある。そこを通じて、子ども若者が意見を聴かれている、受け止められていると実感する機会になると思うので、ぜひ検討してほしい。 子ども本人の児福審出席（アドボケイト等が同席する含む）や、子ども本人が申し立てを行うことについて、フローに書かれると良い。 こえポス投稿後の区側の処理工程をわかりやすく子どもたちへ伝えることが大切ではないか こえポスの回答は、子どもの言い分を聴きつつ、解決はできないけどあなたの意見を大事にしますよ、という姿勢がみられるとよい。 こえポスに投稿された給食に関する意見については、福祉の視点で見ると家庭で食事がとれているか懸念されるため、解決の道筋が見えるような具体的な情報提供ができるとよい。教育、福祉と縦割りにせず、複合的な回答になるとよい。 こえポスの回答を公開してほしい子どももいるのではないかと。自分の相談した内容をどのように扱ってほしいかを子ども自身が選択できるようになるとより良い。

分類	意見	< 参考資料 >
	学校や夏季学童保育クラブでの朝食提供など、こえポスで上がった声をきっかけに様々な情報収集、検討をしてほしい。	
	子どもにとって、電話で相談することはハードルが高い。	
	意見を伝える窓口が複数あるとわかりづらい。入口を1つに固定して、意見を適切な部署に振り分ける役割があると、子どもが意見を言いやすくなるのではないかな。	
	電話やメールによる相談がないことについて、何か改善が必要だと思う。	
	プレイパークや子どもの声を聴くチャイルドラインといった民間の取組を取り入れつつ、葛飾区の子どもの権利について考える必要があると思う。	
	タブレットに子どもページのアイコンはあるが、まだ子どもには存在が浸透していないと思う。	
	子どもページの説明や操作説明会を継続的にやっていく必要があるのではないかな。	
	日本が不自由な外国籍の家庭に向けて、ホームページの操作説明などしてもらえるとよい。	
	低年齢の子どもや障害のある子どもに子どもの権利を伝える方法について考えてほしい。	
	低年齢の子どもや障害がある子どもが相談する方法、意見表明を支援する方法を考えてほしい。	
	障害のある子どもの施設を利用している子どもたちの意見表明のサポートがとても大事である。障害のある子どもに権利について伝えるための施策についてぜひ考えてほしい。	
	障害のある子どもの意見表明は、遊びやスポーツをやって「楽しかった」「面白かった」と言うところから始まるのではないかな。葛飾区でもインクルーシブ的なスポーツイベント等で子どもがその場で一言発せるような機会が増えるとよい。	
	特別支援学校の子どもたちへのアプローチはどうなっているか。	
	フリースクールなど、公立以外の小中学生へのアプローチはどうなっているのか。	
	低学年の子どもは、「権利」という言葉を怖いと感じるかもしれないので、もっとシンプルにアプローチするといい。	
	研修の対象を民間に広げることはありがたい保育所の職員が参加することは、乳幼児の意見表明権について保障することに繋がると思う。	

分類	意見	< 参考資料 >
	将来的にはオンブズマンも検討するとよい。 オンブズマンのような第三者的な立場の方が、子どもの相談に対応していく体制が望ましいのではないかな。 行政機関の意見反映の取組において、ファシリテーターの活用などは検討するとよいのではないかな。 意見表明支援員のアウトリーチや居場所の職員による代弁等、多様な意見表明支援の方法を検討してはどうか。 被措置児童等の意見表明支援はオプトアウトで行うべきである。特に一時保護中の児童は全ケース実施が望ましい。 特に権利侵害が起こりやすい被措置児童等への事業周知について検討する。アウトリーチが望ましいと考える。 意見形成支援のための関係作りもアドボケイトの大きな役割である。役割は意見を聴きに行くだけではないことを明記すべきである。 一時保護所の第三者委員とアドボケイトについて改めて整理すると良いと思う。第三者委員の中立性、独立性という部分は懸念として加えさせていただきたい。 アドボケイト等の動きやすさを担保することは重要である。相談から対応までにどのくらい時間がかかるのか、統計的な確認をしていくと良い。、 アウトリーチの対象について、必要量の整理がかなり難しいが、子どもの権利を守る前提で対象をクリアにしていってほしい。 里親家庭こそ、子どもも閉鎖的な環境で声を発信できないこともあると思うので、入っていけるとよい。 里親宅にアドボケイトが入る場合は、フォスタリング機関が里親の話を聴くなど、支援者の不安をサポートする取組も一緒に検討すると良い。 アウトリーチの検討はぜひしてほしい。	
3 子どもによる区事業への参画	子ども全対象（未就学から高校生年齢まで）に向けた調査の実施は考えているのか。 子どもの権利委員会での検証に際し、子ども本人に聴く機会を担保してほしい。 アンケートの数値だけでなく、背景についても調べるためインタビュー形式も検討すると良い。 なかなか自分の意見を言えない状況にある子どもの意見を委員会における検証や子どもの権利擁護事業の改善に取り入れていく方策を考える必要があると思う。	

分類	意見	< 参考資料 >
	子どもの権利委員会の委員に、子ども・若者の専用枠を作るのはどうか。子どもワーキンググループや、子どもの長期休暇期間に臨時委員会を開く等もできると思う。 子どもの権利委員会を、子どもが傍聴しやすい時間帯での開催の検討や子どもページを通じたお知らせなどを検討してほしい。 子どもの意見表明支援について、子どもがエンパワメントされているかどうかの影響がわかるような指標を考えていく必要があるのではないか。	
4 育ち学ぶ施設・区民等・地域における理解力と支援力の向上	子どもの権利条例自体の周知をしてほしい。 研修の機会を増やしてほしい。子どもの権利条例の認知は、保護者は足りていないと思うので、いろいろなところにアプローチしてほしい。 区民向け講座について区民が参加しやすい形を検討してほしい。 教育委員会と連携し、教員に研修に参加してもらう方法を検討してほしい。 子どもの権利を入口に講座の募集があっても自分には関係ないと思ってしまう。親が悩みそうなテーマで講座を募集して内容に子どもの権利を含めるのはどうか。親向けのワークショップや講座に参加したら、自然と子どもの権利に関する知識が身につく流れは将来的には理想だと思う。 プレイパークの運動から学ぶということを研修で扱ってもらうとよい。 地域の方たちと子どもの遊びや心身の健康について考える機会は、子どもの権利を理解してもらうために大事な入口になると思う。 学校公開の授業で子どもの権利に関する学習を行うことで、家庭を巻き込む取組ができるのではないかな。 教員向けの子どもの権利の啓発もぜひ進めてほしい。	